

市長記者会見記録

日時：2021年7月6日（火）14時00分～14時23分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：川崎市殿町と羽田空港をつなぐ新しい橋の名称が決定しました（建設緑政局）
市政一般

<内容>

<川崎市殿町と羽田空港をつなぐ新しい橋の名称が決定しました>

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は、「川崎市殿町と羽田空港をつなぐ新しい橋の名称が決定しました」でございます。

初めに、福田市長から御説明をいたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 これまで、(仮称)羽田連絡道路として事業を進めている新しい橋の名称が決まりましたので、説明をさせていただきます。

この橋は、本市と東京都が共同で整備を進めており、名称の募集に当たりましては、本年1月15日より約1か月間の公募を行いまして、8,498件という大変多くの方々に御応募いただいたところでございます。この度、その応募の中から「多摩川スカイブリッジ」を選定し、正式な名称として決定をさせていただきました。多摩川スカイブリッジは、多摩川河口から1番目に架かる橋であり、また、世界との玄関口である羽田空港へつながる橋となることで、本市のキングスカイフロントと対岸の羽田グローバルウイングズをつなぐ成長戦略拠点の形成を支える重要なインフラとなります。このようなことも踏まえて、名称の選定については、検討委員会の審議を経て、「多摩川スカイブリッジ」に決定したところでございます。

選定理由といたしまして、資料中段に記載のとおり、「多摩川両岸の地域がつながり、空へ、世界へと発展していくようなイメージを抱きやすく、羽田空港に近接し、空が広く開放的に感じられる橋にふさわしい名称であること。また、公募において多くの意見をいただいた『スカイブリッジ』が含まれており、地域から親しまれてきた象徴的な存在である『多摩川』の名前が入ることで、末永く多くの人々に愛着を持っていただけることが期待できる」ことから「多摩川スカイブリッジ」に決定したところでございます。

多摩川スカイブリッジについては、今年度末の開通に向けて、舗装工事など残る工事を安全かつ着実に進めてまいりたいと思いますので、引き続き御協力をお願いいた

します。なお、今回は予想以上に多くの方々から御応募いただきましたので、抽選により決定した受賞者1名のほか、未来を担う中学生以下54名の方にも、今年度予定しております開通式典に招待し、その式典にて記念品を贈呈させていただきたいと思っております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明いたしました本日の議題についての質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、この議題についての質疑が終了後、改めてお受けをいたします。

進行につきましては、幹事社様、よろしく願いをいたします。

【朝日（幹事社）】 幹事社、朝日新聞ですが、よろしくお願ひします。今回のこの応募、8,498件というこの件数についてはどういうふう受け止めていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 改めて、非常に注目が高かったことを感じさせていただいております。全国はもちろんのことでありますけれども、海外からも御応募いただいたということで、非常に興味を持っていただいたことに改めて感謝したいと思います。

【朝日（幹事社）】 それから、応募20案にもいろいろあります。これ以外にもあったんでしょうけれども、決め手となったのはどの辺りと市長は思っていますか。

【市長】 やはり「スカイブリッジ」というのは一番皆さんから多かったことと、それから、スカイブリッジということと多摩川という、両岸からも非常に親しまれて、皆さん、古くから愛着を持っているところでもありますので、そこの辺りの部分が評価されたと聞いています。

【朝日（幹事社）】 私からは最後で、この橋自体、工事途中に台風が来るなど、いろいろ難航した部分もあったかと思うんですが、今年度末の開通、これは今のところはいけそうな感じなんでしょうか。

【市長】 そうですね。滞りなく、特にこれから台風の影響を受けてという工事ではございませんので、順調に進めてまいりたいと思っています。

【朝日（幹事社）】 開通時期は、ここに書いてある3年度末ということで、年明けぐらいのイメージなんでしょうか。

【市長】 まだ具体的な日にちを発表できないんですけれども、年末ぐらいには、いつ開通式をやりますということを発表させていただきたいと思っています。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【時事（幹事社）】 幹事社の時事通信です。よろしくお願ひします。一番多くの意見

をいただいた「スカイブリッジ」というのは何件ぐらい応募があったんでしょうか。

【市長】 「スカイブリッジ」が212名だそうです。

【時事（幹事社）】 「多摩川スカイブリッジ」というのは何件だったんでしょうか。

【市長】 57~~56~~名の方です。

【時事（幹事社）】 結果的に一番多かったものが選ばれたということなんですか。

【市長】 「スカイブリッジ」が一番多かったんですけども、今回決まったのが「多摩川スカイブリッジ」。だから、「多摩川スカイブリッジ」は57~~56~~人です。

【時事（幹事社）】 この2つを合わせての、それよりさらにというのではない……。つまり、「スカイブリッジ」というものの支持が一番高いということですね。

【市長】 はい、そうです。

【時事（幹事社）】 あと、市長御自身の、これに決まったことについての御感想をお願いします。

【市長】 キングスカイフロント、私たちの側のほうはあるんですけども、やはりこれは、羽田という世界への玄関口に両側をつなぐ橋ですので、そういった意味で、「多摩川」という名前が入ったことは、川崎市民のみならず、この周辺の地域の皆さんにとって非常に親しみやすい名前になったのではないかと思って、個人的にもうれしい名称だと思います。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社から以上です。

【東京】 東京新聞ですけども、川崎市側から見たときのキングスカイフロントに直結している立地性など、市民から見たときのこの橋の利用方法とか、これからの利点みたいなものについてどう考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 当然、橋を渡ればすぐ羽田空港という利便性もありますし、キングスカイフロントを中心として、産業振興にも大きな役割を担うことになるかと確信しておりますので、そういった意味では、利便性だけではない、いわゆる地域の価値を生むものになるかと思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【tvk】 テレビ神奈川です。名前が決まったことによって、改めてこの認知度がぐっと上がってくるんじゃないかと思っています。それに伴って、利便性もまた改めて注目を集めると思うんですが、その点、一言受け止め、いかがでしょうか。

【市長】 今、コロナの影響で、羽田の役割が少しシュリンクしているような状況ですけども、来年、どのタイミングになるか分かりませんが、開通をして、3月にと

どうか、年度内には開通して、その頃には国際線、国内線ともに需要が復活して、まさに世界の玄関口となるのがあのエリア、川崎の最先端に世界の最先端の情報だとか知識だとか、そういったものが集積するような、そういったものを結んでいくものになるとと思いますので、かなり知名度が高まるのではないかなと。川崎の存在感も大いに高まることを期待しています。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 いかがでございましょうか。議題についてはよろしいでしょうか。

それでは、議題の最後に当たりまして、市長、パネルの横に立ちまして、写真撮影の時間を少し取らせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(写真撮影)

《市政一般》

【司会】 それでは、市政一般に関する質疑に移らせていただきますが、進行につきましては、改めて幹事社様、よろしくお願いをいたします。

《英国代表チーム事前キャンプ受入について》

【朝日（幹事社）】 それでは、改めまして、朝日新聞です。よろしくお願いいたします。私からは、東京五輪が、いよいよ開幕日が近づいてきています。川崎のほうでも、事前キャンプの人たちが、受入れが非常に近づいています。世論は、相変わらずいろいろ、中止も含めて分かれている中ですが、市長、今、オリンピックについてどのようにお考えになっているか、お聞かせください。

【市長】 川崎市内においては、もう既に選手が来られる前の段階で、ロジを担当する方ですとか、あるいは医療スタッフの方、もう既に入国されていて、準備を進められているということで、着々と進められているということだと聞いています。観客どうするのかという話は、いろんな御意見あるんでしょうけれども、まさに感染状況を見ながらの綱渡りの判断になるんじゃないかと思うので、その辺りを、専門家なりの意見を聞きながら判断されることでしょうか、それを注視していきたいと思っています。

私たちでできることというのは、安全対策、スタッフも含めてでありますけれども、それから、市民の皆さんへの影響、安全をしっかりと確保することだと思っていますので、それは粛々とやっていきたいと思っております。

《新型コロナウイルスワクチンについて》

【朝日（幹事社）】 それから、もう1問、新型コロナウイルスのワクチン接種で、高齢者の接種完了の目安とされていた7月末、川崎の場合、8月1日というのが近づい

てきていますが、これがどうなりそうかということと、最近、その先のワクチンの供給に不安が随分流れていると思うんですが、川崎市では今どのように見ているかということをお教えください。

【市長】 現時点では、65歳以上の第1回目の接種率は70%をちょっと超えるぐらいだと思います。なので、計画どおりというか、計画より若干上回って進んでいると思いますので、7月末完了に向けて着々とやっていきたいと思っています。

一方で、いろんなところで言われておりますように、第10クール以降のワクチン配分はまだ示されておられませんので、とにかくそのところの何箱がいつの週に届くということをお早く情報提供いただかないと、相当混乱を来すだろうと心配しております。その情報提供については、市からもそうですし、昨日も政令指定都市市長会の会議ありましたので、そういったあらゆるチャンネルを通じて国に要望していきたいと思っています。

【朝日（幹事社）】 今の「第10クール」という表現ありましたけれども、第10クール以降というのは、具体的な接種で言うと、いつ以降ぐらいのイメージなんですか。

【市長】 第10クールが8月26日でよかったです。失礼しました。第10クールは8月1日ですね。

【健康福祉局】 補足させていただきます。国の第10クールですけれども、7月19日と7月26日のこの2週の間どこかに市に供給されるというものになりますので、受け取った後、ワクチンを使用していくという形になるかと思っております。8月にかかっての使用になっていくかと思っております。

以上でございます。

【朝日（幹事社）】 つまり、ここで供給されるものは7月に使うものではないという認識でいいんですよね。8月以降に使うものだと。

【市長】 そうです。8月1日以降にという形。

【朝日（幹事社）】 だから、7月までの接種計画には影響がないという受け止めでもよろしいですか。

【市長】 はい。

【朝日（幹事社）】 分かりました。

《川崎市長選挙について》

【時事（幹事社）】 幹事社、時事通信です。ちょっと間が空いてしまったんですが、さきの議会の最終日に出馬表明されてから最初の会見ですので、抱負といいますか、

どの辺で支持を訴えていきたいとか、何かございましたら教えてください。

【市長】 改めてでありますけれども、ワクチン接種をはじめとして、しっかり行っていくことはもちろんですけれども、アフターコロナを見据えた対策は、経済だけじゃなく、地域のコミュニティー施策含めてしっかり行っていかなければならないことと、それから、出馬表明の後にも申し上げましたけれども、川崎もこれから2020年から30年の間というのは劇的な変化が起これば。特にその前半の5年間、もう既に始まっていますけれども、次の3期目になる2025年までの間というのは、さらに加速度を増して変化が起きるし、また、起こしていかなくちゃいけないと思っていますので、そういった意味で、50年に一度の、あるいはもっとかもしれませんけれども、川崎の第2創業と言えるような時期に入ってくると思っています。そういった、かじ取りを引き続き責任を持って行っていきたいと思っています。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

《英国代表チーム事前キャンプ受入について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、オリンピック・パラリンピックに関連して、今週中に英国の代表チームのキャンプが予定どおり行われると聞いているんですけれども、一方で、国は対策指標、変更というか、変えてはいるんですが、感染したか分からない人がそのまま現地に入り得る仕組みということで、自治体の間では非常に懸念の声が上がっているという状況があると思うんですけれども、川崎市ではその辺については、市長、どういうふうに思われますでしょうか。

【市長】 万が一、陽性者が出た場合ということは、これまでの仕組みというか、神奈川モデルの中で、軽症であった場合、中等症であった場合、重症になった場合というところは、それぞれの施設も病院も決まっていますので、そういった対応をしっかりやっていくということだと思います。水際のところをまずしっかりやっていただくことはもちろんですけれども、万が一のことがあったときにも、それは備えるように、しっかり準備していきたいと思っています。

【神奈川】 やはり空港で、ある程度留め置かないと危ないんじゃないかという声も結構上がっているんですけれども、水際対策ということで、現状のこの仕組みというものについて、何か要望とか、こうしたらいいんじゃないかみたいな希望というのはありますでしょうか。

【市長】 これだけの人数が入ってきて空港のところで留め置くというのは、事実上、現実的な措置ではないですね。ですから、そういった意味では、できるところでし

っかりと、その段階その段階で抑えていくことをやらざるを得ないということだと認識しています。

【神奈川】 物理的に厳しいから、もし入ってきて陽性になったときにはしっかりと、神奈川モデルの中で対応していくと、そういうようなことですかね。

【市長】 全て受け手ということではなくて、例えば私たちのキャンプに関わるメンバーも、イギリスチームの場合、選手の人たちも毎日PCRを受けるということですし、私たちもワクチン接種を受けたりPCR検査を4日ごとに受けたりという形で、積極的なそういった対策を取っていきますので、水際だけで全てをやるというのは、それはなかなか厳しいとは、その前までも、出国前からやっているの、あらゆるクリアランスを通過しているの、そういった意味では、さらに私たちとしても対策を打つという、重ねてという形になると思いますが、そうやって、なるべく安全・安心のものにしていかなければならないということは思っています。

【神奈川】 今のところで、不安のようなことはありますでしょうか。

【市長】 完全に100%不安がないかといったら、それはうそだと思いますが、ただ、それが万が一、例えば陽性者が出た場合であっても、そののしっかり対策を取っていくというのがあるべき準備だと思っていますので、それをしっかりやっていくということだと思います。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

《等々力球場について》

【朝日（幹事社）】 もう1問いいですか。今週土曜日から夏の高校野球の県大会がありまして、等々力球場が久しぶりに使われるということもあるかと思いますが、何か御感想みたいなものありますか。

【市長】 高校野球の前に、ちょっと宣伝っぽくなりますが、川崎市の少年野球のチームが先日、等々力で県予選の大会をやって、高円宮賜杯なんですけれども、神奈川県予選で久本ブルーエンジェルスというチームが優勝しまして、神奈川県の代表として全国大会に行くと。そこの優勝したのが等々力で決勝をやって、川崎のチームが優勝したことは、昨年今年できたばかりの球場に本当に大きな花を添えてくれたなと思っていて、子供たちも非常に頑張ってくれたと思っています。ですから、いろんな制限がある中でありますけれども、甲子園でも、ぜひこの新しくできた等々力球場の中で、みんなを元気づけてもらいたいなと思いますし、こんなときだからこそ、高校生の元気をみんなに分けていただきたいなと思っています。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにございましょうか。

それでは、以上をもちまして会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）0312